



河海抄

藤原家
十二

1272
12



船も友人年かき冠り了に批笈る也
大母のたきりしるもとと

樹下集云大入道原よたに物わんせとけり
金比毛ら花の中は 道雅釣信 小付 大武

と急乃世よるけりやあまの梅の青葉女にけり
とるゆりいよと物志とるあゆり

物原 未没 茵 詩文茵暢穀は日茵虎は也

こゆうとのしりあやむえんことととの

高麗人 元源 たるんけり 綾 緋金錦 金と織付 けり錦也

金爛乾乾 延長八年大使裴塚文の物とけり

由日記よみしり

あやと物 つかしととに

綾 織回 着細揚毛木佐入織回揚毛百拵

かきしと物 けりしと物 けりしと物 けりしと物
かきしと物 けりしと物 けりしと物 けりしと物

古くは久しと物 けりしと物 けりしと物 けりしと物
と屋情本字乃誤類うととと物加菊とと類
ありと東行うととと物けりしと物 けりしと物

けりしと物 けりしと物 けりしと物 けりしと物
類古人の所思也 吳魯系是

合名秘方云 為方

沈大^{か大ニ} 丁子大^{か大ニ} 白檀大^{か大ニ} 甲子大^{か大ニ}

麝香大^{か大ニ} 薑陸大^{か大ニ}

拾遺方

沈大^{か大ニ} 丁子大^{か大ニ} 甲子大^{か大ニ} 甘草^{か大ニ}

藥對金小^{か大ニ} 一洗入^{か大ニ} 黃對金^{か大ニ} 占唐^{か大ニ}

密和研金槌之小杵拍甲高以和密金之今
其黄之均也其此も様方外侍男耳是乞水相作
事也延和六年二月之有原典侍滋野木子約信
能言也

ふり志然く 深や〜とせとの外高に通しと句也
八条の式居り内中〜と法之也

本康親王 一或名号八条文 仁明天皇中七甲子
女后四位下 紀程子 岩席 延和九年薨 号高上皇孙也

黑方

洗字女 丁子二女 甲一女 薑二女

麩金二女

又侍臣

洗字女 丁子二女 甲一女 麩金二女 薑二女

丹松二分 件二方有八条文方之

あつらんよ桃んあもせ給

御侍秘

洗四分字女 ちやもせ給未女のさう信と法く給中に也

か〜入御〜と也の御侍信のさう〜

高上皇孫

らうら〜記さる梅乃枝下りつ〜りも女

高上皇記云ひ〜り〜は侍さる人のたれと〜

て約多の侍さる御に〜と〜物乃取〜と〜お州

あ侍指下はあ〜と〜は〜と〜

ま〜と〜地うあ〜物の花はも〜と〜は〜

ら〜と〜に〜の侍さる〜と〜は〜と〜

洗字 福徳 見捨違

人仁子古可上耳

沈小四畝二分 薑小一分 楡小一分 丁小二分

甲小一畝 丁小一分二分

沈小二分 丁小二分 甲小二分 甘小二分 朱

薑小一分二分 乙上朱崔院湯也

女黒衣者 一名黒方

沈大二分 丁大二分 甲大二分 薑大二分

丁大二分 百和者 字伯後

沈大二分 丁二分 甲二分 金二分 甘二分 乙上小

乙上仁和元年三月三日抄 三増換

乙上の朱崔院

古々集小朱崔院くわく亭子院也仍び乙上

此朱崔院も寛平十一年御事より乙上の御事より後

乙上の御事より後朱崔院より乙上の御事より後

乙代合書と物より後乙上の御事より後

乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

乙忠朝臣 乙忠朝臣

れいこも色はうきうきして
おとれ紫木とは経け櫃つきてくしうも欲とん経
の地も也草にうきうきと次は御めとれいこも
しとて琵琶のうきと日らしてあり

あつらうらめく 見集

幸お申ゆらうきあむこゆせりにあむらりてしこせわ
とよりんり吹をくそりせりわらうてしこきん

い双調九一鼓風管秋ある秦葱く志板拍
覓雲曉送候山月

いやうらりそ物えうたらり 物く打十四音
物く打馬車

あ代も色ぬくしとあえはくは

梅本

拾遺

毎わわ

あむめ月と花を以てしとぬくくのり色はうらあき

或夜も月文はらうきあむらりぬれ花がうらあ
いゆらうきあむらり色はうらあきと教らうらあ

海もあむらり色はうらあきとあきはうらあき
又あきあむらり色はうらあきとあきあむらり

海もあむらり色はうらあき

在布本

後撰集

れいこあきれ内侍

总裳の付らうきあむらり色はうらあき
内侍も役とつとあきあむらり

いゆらうきあむらり色はうらあき 競し集

仁徳天皇仁武年八月日向小一陳其云誤次同日

假名多分句时始起年又何人而能知 答云

弘法大師西施三件事之所見但大后自笔御名

法苑御傳書之時弘法以八種誨外南小美

少相逢為御師之名清范房祚あり紫名振

富橋如之每如之後源信僧赫又執しる況云日

國語名路し来之金之唯以御名可事也弘法

大師云傳智徳去之林梵字是墨未忘法之後家

寫法の作イロハニホトシ誤り給以外一切法

の重なる書御傳を辭し撰文字イロハ字之文句

云ふ也 不说傳多只以世一事令誨人皆在耳

之由前傳す也古人日記中在日記之又曰弘法

大師弘法大師西施以法之御名在日記中假名日中

純在之由也亦令見之為答云此の在理也隨我

只對優之今書也イロハニ者乃時始須之

一況伊呂波之三版イロハニホトシ又ニラ

ワカヨクソヨリ止ヒモサステ

又云イロハトハ母ノ名也假名梵字ノ字母ノ義也

法古乃初撰ハ百葉書日ハ此方ハ假名イロハニ

こゝろくゝりてありあれ

とはと云ふありこゝろくゝりてありあれ

女と云ふよき

らん乃物語云たはこゝろくゝりてありあれ

そちこゝろくゝりてありあれ

まゝに云ふなり

あまりてうわれ

弘法大師 系 傳書大師 或云是是大師

大母与護命 傳正傳

祥

ふまう記にあり 名媛

いたまふ人のあはれとてふくくさいあはれふらりてふ

荻麟（白源と筆俱） 白氏文集

あこ人分てこころあり来くことさうにふるあはれ

このくちやありこころ 紙屋 文成

みまれとてこころありとてあはれとてあはれとてあはれ

文学の長所あるあり 其来常しく人のこころ

神也行いありく神 象いこころ神也

中、葉集は好年々然也

張芝字伯美善草書 後世時人謂曰張氏水

盡黒（後漢） 仍張生と草聖と号之

志を海にあらふあはれこころ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

もやういふとて 又富極ふ

けうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

真感（日記）

こめくくくくくくくくくく 續紙 巻物

さういふとて古万葉集とていふくくくくくくくく

万葉集は夫々重武御代撰くくくくくくくくくく

巻費之撰く是以後の撰也 天曆入る

宣旨ありて始て大和方えくくくくくくくくくく

始て古万葉くくくくくくくくくくくくくくくくく

いかに振清原之物をいかに抑記時文學生源次所

書す取坂とて城也たを女物故原節下伊本とて

乃西の列南にゆきくくく

かみあはれとていふくくくくくくくくくくくく

戸也る院号にして山刺くつるくちるゆふ

あさみよりいふ系代篇と落めたること此世人の法なり

後継六位祀也 世宗位以上祀也 此は宗三位祀也

古位位叙之位は後志改祀之由宗祀のみより三位

より一位よりいふ文也 此は世宗位祀と云ふも此は

後撰唐の系録の中納言位より附九條太右衛

祀と云ふも此は宗三位よりいふ文也 此は宗三位

にしよる位よりいふ文也 此は宗三位よりいふ文也

納言事と云ふ系と云ふ事

宗三位 後黄 六位祀よりいふ也

此系よりいふ事なるも此は宗三位よりいふ文也

後撰 或宗或 此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

鬚線より白 此系八九條 皇雅畫成人園林

本高本 白氏文集

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

此は宗三位よりいふ文也

後撰

此は宗三位よりいふ文也

るまじとていふこと

それらのおまじとていふこと

百十一人

人丸集

あつらひのついでに

いふこととていふこと

秋の月のおまじとていふこと

康保二年十月廿一日

朝おぼろ雲あり

坊就る場所

源朝臣下

去在階水

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

おぼろ雲あり

務事

凡雲階後上臻竟母感氣收袖雲水之下又竟
母之懷妊竟也又帝王世記云竟帝生時紫衣之
於房上計帝時隨遠九年之法米人民饑不菜食
云云

秋とさつ時そむる氣感記うらふる文句云

厚んこり衣のりことと良衣子也

衣服令義解 割服条曰家人奴婢 橡黒衣

謂橡標木實也以橡染緇信之橡衣也

白袴云文之有剛也

又云服之条凡服之白黄丹紫

蒲陶蒲陶紫文之最優也 緑紺縹紫黄

慕橡慕橡黒如し 白以下者宜得服

僧尼令云凡僧尼之服木蘭青碧白已黄及壞

色等衣謂木黄衣黄橡也

天長格曰

右政事封

右政事封

在貢調絛紋亦止民有 右博橡緇事

大納言云三位兼右大臣藤原公氏初平清原公人夏

野宮其勅傳法圓和貢調物絛多橡少云平死用

或納言令宣進右園調絛之橡令貢首宣康公依宣

施行但復舊之事約法封

天長八年三月廿二日

右政事封 中務氏初大親未省

意賜書上之衣服生紋事

右被指中波之重太と傳大初美文仿更方原約下
台野宣備其 柙内を察書近未衣服元未賜椽
後宜改し仍給生紋を三有承命依宣施行

天長九年十一月廿一日

今案續 船カトリ 絶列す又

延長内親家式年法陵幣条曰椽昔後世後子
後即死候 白椽候。帛

又曰 巾服条曰死百廿九行 又白二分搗椽五斛五斗
七斗

吹和名之 椽 ト記リ
倍トシテト号

行りし人のいふことありし時わさゆり
椽衣之位の上衣也亦人の椽上福風といふ也
い衣衣といふ種の人科中わわつ種といふ也

くはる也

又云行りし人のいふことありし時わさゆり
色

行りし人のいふことありし時わさゆり
つらみのわさゆりといふことありし時わさゆり
大和記師光記曰建長六年三月廿日今日余申曰
亦衣といふ衣刻名朝衣病食祀
水原抄之椽候といふことありし時わさゆり
乃晴の付一人の椽といふことありし時わさゆり
ら行りし人のいふことありし時わさゆり
といふことありし時わさゆり

又云切采曲といふ事あり其時わさゆり

青赤白椽事

その御世にありし

の御世にありしと云ふに 宇治法師 如聖の御世

以て作らば之(一)東院の御世裏焼亡の時焼失す

新儀式 二月旬後

君有奏任可也と書有る承統内侍御前御
屏風有る色即大臣の起立既候御屏風有
即執之可堪^た爰に親王と大臣と御座候御
お居合墨草整^じ於沖帳東面一許丈大臣先進
志系整次依^り移^り大臣書司一人執和
琴^を末^に降^り子^を所^に置^き 御書^は 奏^す 縁^に行^は 或^は
殿上御座候奇^に去^り之^を通^し御盃^を曲^り之後奏^す

見し条

小野文右大臣記 長保二年十一月十日

新文之後お御前殿曰大臣以下爰に任令之御前
草整次^は書司^の女孺^は宇治法師お自御
陵子^は量^り草整^の前^に又縁^に行^は次^に取^りお書司^の女
官役^の見^し前^に或^は書司^の女官^はお如^し之^を之後次^に
縁^に行^はを末^に次^に御座候賜^す

或記曰延久元年宇治殿命^を於^に御前^に御座候時^に
多法師^は如^し其^の詞^を云^は御前^に御座候

御座候宇治法師^は御座候^に
うらむを女^は御座候^に也 陰根^は御座候^に 権仙^は御座候^に

朱雀院^は御座候^に御座候^に御座候^に御座候^に御座候^に
さあ^り也^は御座候^に御座候^に御座候^に御座候^に御座候^に
引^き御座候^に御座候^に御座候^に御座候^に御座候^に

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on the right page of an open book. The characters are dense and difficult to decipher due to the cursive style and fading. The page number '11' is visible in the bottom right corner.



